

学び合いから新しい力

新年あけまして

おめでとうございます。

昨年は私たちの活動成果を多くの方に知っていただく機会を得ました。その結果、多方面から賞賛の声をいただきました。これも偏に会員のお力添えの賜物と感謝の気持ちでいっぱいです。

少し広く世の中を見渡しますと、様々な問題が起こっています。令和の米騒動とも言われたお米の値段の高騰もその一つです。お米はどこに行ったのか、どうして値段が下がらないのか。しかし、生産者側にはそのような経済

異的な恩恵が感じられません。複雑な社会の構造の中では、簡単に解決できるものではないようです。

一方では専業農家の数が減り、就業者の高齢化が益々顕著になっています。おかげで、山口県は農業従事者の平均年齢が全国一高いという結果も知ることになりました。生産者が減少し、高齢化が進むとすれば、対策はデジタル機器を使ったスマート農業ということになります。多額の投資と技能や知識のトレーニングが必要になります。

私たちが取り組んでいる「多面的機能直接支払制度」は、「農地水環境保全活動」として始まってから来年度で20年になります。目に見えるものは多くはないかも知れませんが、保全活動

の労務の対価や、施設の改修などでの地域や、働く人々に少なからず貢献をしてきました。

私たちの活動は法律によって細かく規定されていますので、自由度は高くありませんが、地道な活動で地域を支えてきたいと考えています。後継者の育成が課題だという意見は、毎回の会議で出てまいります。ただ育てようとして、できるものではありません。「いっしょにやりたい」と思ってもらえる団体になるのが理想です。

そのためにも様々なところで学び合い、意見を戦わせながら、より良い活動にしていける努力を続けていきたいと思っています。どうぞ今年も力をお貸しください。

代表 中村 丈二



水平線からの日の出（山口市秋穂二島美濃が浜）

西側外周路を除草清掃



草刈り機だけではなく「箒」も活躍

12月14日、冬の農道除草清掃作業が行なわれました。今回は最も距離の長い西側外周農道です。

15人の参加があり、3つのグループに分かれて作業を行いました。今年の農道は例年に無く雑草が繁茂しており、丈も伸びて非常に厳しい状況でしたが、予定通りの時間で完了しました。参加の皆様ありがとうございます。今月は18日、25日の作業となります。

LINEのグループへの参加

八方原自治会緊急連絡網のライングループへの参加手続きを変更します。

左のQRコードをご自身のラインの友達追加機能で読み込んでください。



管理者の副自治会長 原田茂樹と友だちになります。その後グループへの招待を行ないます。



避難と消火訓練を実施



怪我人を担架での搬送の訓練

自治会公民館はもしもの時に備えて避難訓練、消火訓練をする必要があります。消防法の改正で法的な規制は無くなったとのことですが、自主的にやるべきだという指導がありました。

公民館使用中に台所から火事が発生し、怪我人が出たという設定です。私設消防組が怪我人の担架搬送を行ない、無事に救出したという内容です。残念ながら参加者も少なく、本当にいざという時に有効なのかという疑問が湧きます。



女性こそ消火訓練が必要

杉山自治会長は「緊急の場合の正確な通報は、体験しないと難しいのではないかと。参加者については班を指定し、ある程度義務的に参加してもらうような形にすべきかもしれない」と話しておられました。

お米が食べられるようになるにはこんなに手間が

子どもたちにお米が食べられるようになるまでの行程を体験してもらう「脱穀体験」をおごおり子ども食堂、おごおり図書館友の会と一緒に企画したところ、応募開始からあっという間に定員12家族がいっぱいになってしまいました。

11月24日に、八方原公民館で、早生品種の稲の「二番穂」を使って脱穀、籾刷り、精米を体験できるように準備しました。脱穀は、自分たちの手で稲穂から籾を外しました。簡単そうですが、こど



子どもたちも脱穀には家族参加。最初の脱穀に寄って

もたちにとつては、興味のあるもので、非常に熱心に取り組みました。その籾から玄米を取り出すには、すり鉢の中

で、軟式野球のボールで籾をこすつてもみ殻と玄米を分けます。この辺りからだんだんと手こずりだしました。

最後は玄米のぬか部分を取り出す作業です。これには瓶の中に入れた玄米を、木の棒で突いて落とすしか方法がありません。急げば米は割れてしまい、食用には不向きです。用意したお米は半分程度は玄米でしたが、時間が無くなり作業は終了となりました。

また雑穀の「ひえ」を試食しましたが、あまり美味なものではありませんでした。収穫時期や調理にも問題があったのでしょうか。参加のみなさんは楽しんで帰られました。

二番穂を刈り取りしてどうする



縦横に駆け回って刈り取るコンバイン

11月の終わり、大きなコンバインが八方原の圃場に現われました。早生品種の二番穂を刈り取りたいという申し出があり、「どうせ漉き込むので、了承した」とのことでした。何に利用するのでしょうか。

中国四国地方奨励賞を受賞

中国四国農政局の「第12回ディスカパー農山漁村の宝アワード」の地方奨励賞をいただくことになりました。

これは農漁村の力を活かしたユニークな活動に送られるものです。八方原の環境を守る会の一連の活動が評価されました。

2月12日、山口県教育会館で表彰式が行なわれます。式典に参加ご希望の方はお知らせください。